

野村証券
フィデューシャリー・マネジメント部
木須 貴司

確定拠出年金専用ファンドの動向(2021年6月)

2021年度第1四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は8兆5,408億円となりました。株式などのリスク性資産が上昇し、残高は増加しました。収益率をみると、海外株式、不動産(上場REIT)やマルチアセットなどの収益率がプラスとなりました。資金流入をみると、確定拠出年金専用ファンド全体に当四半期で2,087億円が流入しています。資産クラス別では、海外株式型への資金流入が最も多く、1,075億円が流入しました。

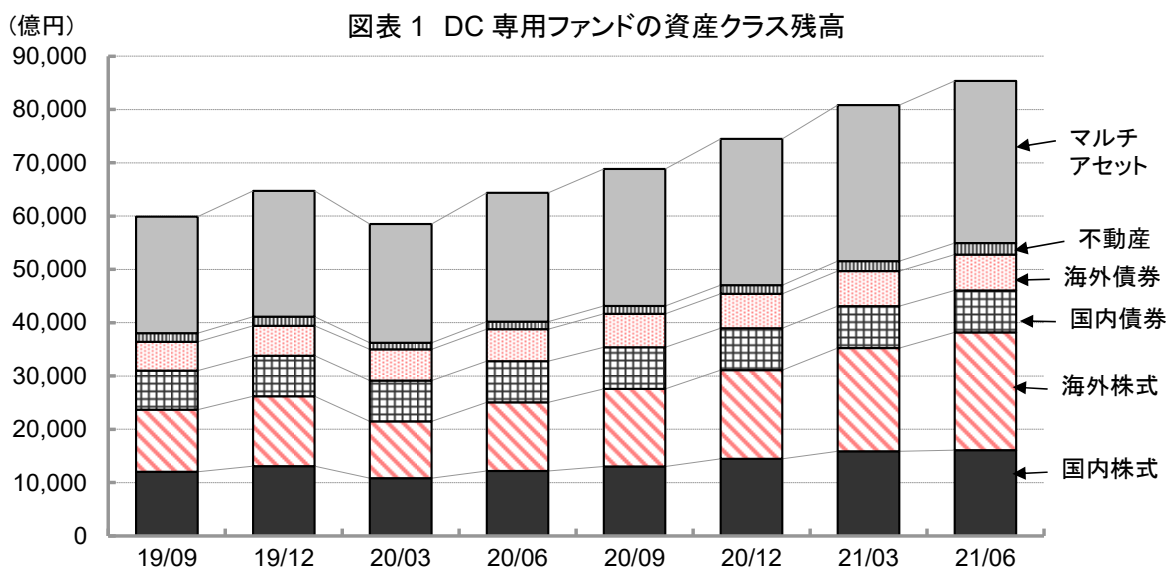
確定拠出年金専用ファンドの残高

2021年度第1四半期(4月~6月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信の残高は8兆5,408億円と、好調な株式市場の影響を受けて、前四半期から6%程度、1年前と比べて33%増加しました(図表1)。

すべての資産の残高が前四半期末から増加し、最も増加率が高かったのは海外株式の14%

でした。次に増加率が高かったのは、不動産で12%増加しました。

資産クラス別残高構成をみると、マルチアセット型の割合が引き続き最も高く、全体の35.6%を占めています。マルチアセット型の中では、主に資産配分が固定されているバランス型が中心となっていますが、ターゲットイヤー型も当四半期の増加率は12%となっており、高い伸



出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

び率を示しています。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ44.7%、17.1%となり、前四半期と比べて、前者は1.1%増加、後者は0.7%低下しました。株式ファンドの時価が増加したためです。2020年6月末と比べると株式ファンドの比率は5.7%増加しました。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、28.0%と、前四半期に比べ1.3%減少しています。海外資産を中心に運用するファンドは、前四半期から1.7%増加し、33.8%となっています(マルチアセットなどのハイブリッド型はい

ずれにも分類していません)。

さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は76.9%となり、前四半期から0.2%増加しました。パッシブ比率が増加するのは、1年ぶりでした。パッシブファンドへの資金流入などが原因と考えられます。過去1年では、パッシブの比率は0.7%低下しました。

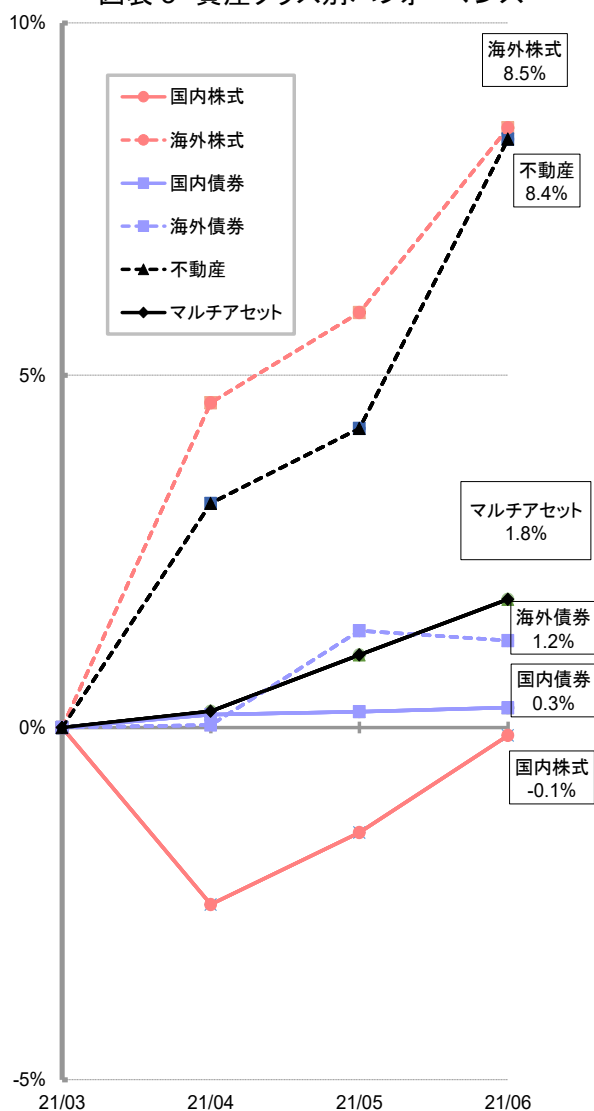
図表 2 DC 専用ファンドの資産クラス別残高(億円)

	19/09	19/12	20/03	20/06	20/09	20/12	21/03	21/06
国内株式	12,063	13,113	10,808	12,224	13,026	14,478	15,899	16,064
アクティブ運用	4,390	4,755	3,814	4,331	4,719	5,296	5,786	5,845
パッシブ運用	7,673	8,358	6,994	7,893	8,307	9,182	10,113	10,219
海外株式	11,621	13,104	10,688	12,871	14,569	16,625	19,356	22,108
アクティブ運用	2,380	2,681	2,218	2,721	3,101	3,579	4,104	4,667
パッシブ運用	9,241	10,423	8,470	10,150	11,468	13,046	15,252	17,441
国内債券	7,320	7,615	7,643	7,688	7,777	7,888	7,865	7,893
アクティブ運用	1,005	1,008	1,003	1,002	1,013	1,022	1,018	1,019
パッシブ運用	6,316	6,606	6,640	6,686	6,764	6,866	6,846	6,874
海外債券	5,441	5,607	5,837	6,017	6,288	6,422	6,563	6,735
アクティブ運用	578	584	587	605	624	632	636	641
パッシブ運用	4,863	5,023	5,250	5,412	5,664	5,790	5,927	6,094
不動産	1,586	1,690	1,229	1,424	1,499	1,616	1,895	2,122
マルチアセット	21,887	23,573	22,344	24,140	25,684	27,458	29,245	30,438
バランス型	18,690	19,810	18,626	20,067	21,361	22,874	24,396	25,330
ターゲットイヤー型	429	474	460	554	620	679	768	860
アセットアロケーション型	2,768	3,289	3,258	3,520	3,703	3,906	4,081	4,249
その他	43	44	43	47	46	46	47	47
残高合計	59,961	64,746	58,592	64,410	68,888	74,534	80,868	85,408
残高割合								
国内株式	20.1%	20.3%	18.4%	19.0%	18.9%	19.4%	19.7%	18.8%
海外株式	19.4%	20.2%	18.2%	20.0%	21.1%	22.3%	23.9%	25.9%
国内債券	12.2%	11.8%	13.0%	11.9%	11.3%	10.6%	9.7%	9.2%
海外債券	9.1%	8.7%	10.0%	9.3%	9.1%	8.6%	8.1%	7.9%
不動産	2.6%	2.6%	2.1%	2.2%	2.2%	2.2%	2.3%	2.5%
マルチアセット	36.5%	36.4%	38.1%	37.5%	37.3%	36.8%	36.2%	35.6%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

図表3 資産クラス別パフォーマンス



出所)NRI Fundmarkより野村證券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

分類別パフォーマンスの推移

図表3は2021年度第1四半期におけるファンド資産クラス別累積投資収益率の推移です。この四半期は、ワクチン普及による経済再開への期待の高まり、金利上昇が一服したことなどが寄与し、株価が上昇しました。また、為替へ円安が進みました。その結果、海外株式の収益率は8.5%となりました。一方、国内株式は再度の緊急事態宣言の発令などにより経済再開への期待が低下し、-0.1%とややマイナスとなりました。

また、今四半期は国内株式、海外株式いずれもアクティブファンドの収益率の平均がアクティブファンドの収益率の平均を上回りました。今四半期は再びグロース(成長)株運用戦略が好調だったためと考えられます。

マルチアセット型については、平均すると1.8%の収益率となりました。リスク水準が高い商品ほど高い収益率となりました。不動産(REIT)は、株価上昇の影響を受け、8.4%と高い収益率となりました。

海外債券は、金利が低下あるいは横ばいで推移したことに加え、為替が円安となったため、収益率は1.2%とプラスとなりました。

分類別資金純流入額の推移

図表4は、2020年度第1四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額－解約額)の推移を表したものです。

図表4 DC専用ファンドの資産クラス別資金純流入額(億円)

	20/04～ 20/06	20/07～ 20/09	20/10～ 20/12	21/01～ 21/03	21/04～ 21/06
国内株式	131	42	-96	137	187
海外株式	597	434	256	711	1,075
国内債券	84	78	112	9	6
海外債券	123	161	90	84	92
不動産	117	22	30	46	68
マルチアセット	663	548	436	532	658
資金純流入合計	1,719	1,287	829	1,518	2,087

出所)NRI Fundmarkより野村證券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村證券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村證券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

当四半期の純流入額は前年同期(前年度の第4四半期)に比べると368億円増加し、2,087億円となりました。最も資金流入額が大きかったのは海外株式で1,075億円と前年度の第1四半期の資金流入額を478億円上回りました。結果的に我が国の確定拠出年金資金(元本保証型除く)の海外株式への投資比率はこれまでになく、高まっています。

— 次号のお知らせ —

次号は

8月10日(火)

発行予定です。

野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込)(20万円以下の場合、2,808円(税込))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

弊誌の記事はバックナンバーも含めて野村年金マネジメント研究会のホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

編集:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、野村資本市場研究所

発行:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター(野村年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2
アーバンネット大手町ビル

TEL: 03 (6703) 3991 FAX: 03 (6703) 3981

Email: nenkin@jp.nomura.com

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。